

相模原市立博物館活動評価書

(評価期間:令和 6 年度)

令和 7 年 11 月

相模原市立博物館

【目次】

I	博物館の活動評価にいたるこれまでの経緯	1
II	令和6年度 相模原市立博物館活動評価の総括	3
III	相模原市立博物館活動評価	
	IIIa 定量評価	7
	IIIb 定性評価	9

I 博物館の活動評価にいたるこれまでの経緯

平成 20 年 6 月に「博物館法」が改正され、博物館の運営状況の評価やその情報の提供等を行うこととされた。このため当館では、当館の使命等に基づき、定量評価及び定性評価の手法で、博物館協議会による有識者評価を経て、平成 23 年度から令和元年度までは 3 年ごと、令和 2・3 年度は 2 年間の、令和 4 年からは単年度で評価を行っている。令和 5 年度に引き続き、第 7 回目となる令和 6 年度の活動について評価を行った。

有識者評価開始までの経緯

平成 20 年 6 月 博物館法改正

博物館法条文(現行)

(運営の状況に関する評価等)

第九条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

(運営の状況に関する情報の提供)

第十条 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

平成 21 年 12 月 第 8 期博物館協議会へ「活動状況に関する評価計画の策定」について諮問

第 8 期博物館協議会(任期:平成 21 年 11 月 20 日～平成 23 年 11 月 19 日)において、博物館評価の先進事例や当館のこれまでの活動状況をもとに、評価のあり方について検討が行われた。

平成 23 年 11 月 第 8 期博物館協議会より「活動状況に関する評価計画の策定」について答申

評価のあり方について答申されるとともに、相模原市立博物館の使命として次のとおり定められた。

- 地域の歴史や文化・自然に関する資料を調査研究し、また、収集した資料を適切に保存し蓄積するとともに、その活用を図りながら地域文化を継承・発信する拠点となること
- 主体的に参加した市民と協働し、あるいは地域の諸機関と広く連携していく体制を整え、市民文化の向上に資する活動を積極的に展開すること

平成 24 年 2 月 第 9 期博物館協議会へ「活動状況に関する評価計画の策定」について諮問
第 9 期博物館協議会(任期:平成 23 年 11 月 20 日～平成 25 年 11 月 19 日)において評
価計画及び具体的な評価の手法について検討を行った。

平成 25 年 11 月 第 9 期博物館協議会より「博物館の活動状況に関する評価について」答申
同答申において、具体的な実施方法について次のとおり策定された。

- 定性的評価と定量的評価を組み合わせる。
- 定量的評価は、博物館における一般的な数値である入館者数ばかりでなく、特に当館の
重点課題の一つである市民協働に資する活動等に係わる数値に対して行う。
- 定性的評価は博物館の使命を達成するための当面の重点課題に対して行う。
実施の手順に際しては、重点課題を達成するために実施する事業について、まず館内部で
の企画内容とそれへの達成度に対する自己評価を行い、それに対する利用者・参加者
側の評価をアンケート等の結果を基に示し、その上で博物館協議会による有識者評価を行
って、全体的な評価としてまとめる。なお、協議会による評価は、会議の開催日程等、時間
的な制約もあるため、効率的な実施に努める。

平成 25 年 11 月 第 10 期博物館協議会による有識者評価開始(平成 23～25 年度の評価)
以後、定期的に活動評価を実施。

令和 6 年度相模原市立博物館活動評価書作成の経緯

令和 6 年 11 月 第 15 期博物館協議会による有識者評価開始

第 15 期博物館協議会(任期:令和 5 年 11 月 20 日～令和 7 年 11 月 19 日)において、令和
6 年度の博物館の活動評価について、有識者評価を開始した。同時に、今後の評価の手法につ
いて検討を行った。

第 15 期第 4 回会議 令和 7 年 3 月 7 日(金)

第 15 期第 5 回会議 令和 7 年 9 月 3 日(水)

第 15 期第 6 回会議 令和 7 年 10 月 28 日(火)

Ⅱ 令和 6 年度 相模原市立博物館活動評価の総括

令和 5 年度の活動評価において指摘された事項への取組について

【指摘事項①】 相模原の文化や自然を次世代に伝達するには、どのようなコレクションが必要なかを検討して計画的な資料収集を行う必要がある。開館 30 年近くを迎え、収蔵庫が満杯に近づいてきており、増設について検討が必要な時期かと考える。統廃合で廃校となった教室などの再活用も一考である。

【主な取組】 計画的な資料収集を行うため、資料収集方針(コレクションポリシー)案を令和 6 年度に作成した。新たな収蔵スペースを確保するため、廃止となる市内公共施設の跡地活用について検討を行った。

【指摘事項②】 間もなく開館 30 周年を迎え、常設展示の全面リニューアルは喫緊の課題である。

【主な取組】 自然・歴史展示室の特定天井改修にあわせて、常設展示室のリニューアルに向けた検討を行った。

【指摘事項③】 市民との協働による調査研究の成果は、「学びの収穫祭」を含む館内展示や報告書などの印刷物として公表するように努めてほしい。「学びの収穫祭」での成果発表は発表要旨集などの印刷物として成果を記録・保管していただきたい。

【主な取組】 「学びの収穫祭」は発表団体・発表者に発表要旨を執筆してもらい、それらを要旨集として印刷し、参加者に配布するとともに記録として残した。また、ボランティアとの協働による活動については博物館研究報告書でも報告した。

【指摘事項④】 市民にとって、学芸員の話や資料や標本に触れたりする学習はとてもインパクトのある体験となって記憶されるので、今後もより多くの博物館ならではの体験型を中心とした市民向け事業などを実施していただきたい。

【主な取組】 「生き物ミニサロン」や「土器×2 タッチ」などの定期的な体験学習事業を開催した。その他、種々の講座や講演会など多岐にわたる教育普及事業を展開した。

【指摘事項⑤】 市民の意見に、「おじいさん、おばあさんが実際に昔の遊びを一緒に教えてくれるとうれしい」とありました。異世代間の交流の場や高齢者の社会的活動への参加の意味で、良い取組を計画できるのではないかと。

【主な取組】 市民学芸員や各分野のボランティアに小学生から高齢者まで幅広い世代が参加した。ボランティアグループ内だけでなく、協働による教育普及活動を通してイベント参加者とも、世代を超えた交流を進めた。

令和6年度における活動評価総括

【当館の使命】

- 地域の歴史や文化・自然に関する資料を調査研究し、また、収集した資料を適切に保存し蓄積するとともに、その活用を図りながら地域文化を継承・発信する拠点となること。
- 主体的に参加した市民と協働し、あるいは地域の諸機関と広く連携していく体制を整え、市民文化の向上に資する活動を積極的に展開すること。

【評価項目】

- 1 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動
- 2 市民との協働による博物館活動の展開
- 3 多様な主体との連携

【全体総括】

博物館の運営の基盤となる調査・研究、資料の収集、保管、展示および教育普及事業を外部機関や市民協働により遂行したことが評価された。また、多様な主体と連携して様々な事業を展開したことも評価された。

具体的には、市民との共同調査や大学などの研究機関との共同研究、市民協働による資料収集・整理・ワークショップの実施や「学びの収穫祭」での市民活動の成果発表、講師派遣や職業体験の受け入れなどが評価された。さらに、学芸員が、専門家としての役割を十分果たせるための環境整備を求められた。

課題としては、収蔵庫の増設、効果的な情報発信、学校とのさらなる連携強化が挙げられた。

【定量評価】

入館者数・プラネタリウム観覧者数・企画展観覧者数などは、プラネタリウムの更新工事に伴う約4か月間の休映期間の影響で、休館期間のなかった令和4年度に比べるとプラネタリウムと企画展観覧者数は減少しているが、さよならプラネタリウム企画など入館者数は増加している。講座参加者・講演回数はコロナ禍前と同程度の回数となっている。学芸員の講師派遣回数は過去5年間で最高であった昨年度と同水準であった。市民の会の延べ参加者数は活動の活性化に加え、新たな会も発足したため、総数・参加率ともに伸び、市民の学習機会の場を広く提供し、生涯学習機関としての博物館として役割を果たすことができた。

【定性評価】

- 1 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動(12～30 ページ)では、「調査研究及び資料収集と活用」、「展示教育普及事業の実施」、「宇宙教育普及事業の実施」、「施設・環境の維持管理」について評価を行った。

有識者からは、厳しい予算状況の中で、市民との共同調査や外部との連携研究を積極的に行い、その調査・研究成果もしっかりと報告されていることや、資料の収集、保管という博物館の役割を果たしていることが高く評価された。また、企画展やミニ展示、講座・講演会・体験学習・観察会、ミニプラネタリウムなど様々な事業を展開していることが評価された。さらに、限られた予算の中で、計画的に施設・設備の整備修繕などがなされていることも評価された。一方で、学芸員が他機関との共同研究ならびに学会への参加や研究報告を積極的にできる環境整備を求められた。

課題としては、収蔵資料のデータベース化、収蔵庫の増設、ホームページや SNS を活用した情報発信方法の再検討が挙げられた。

2 市民との協働による博物館活動の展開(31～36 ページ)では、「市民協働による調査研究・資料収集活動」、「市民協働による展示教育普及事業」について評価を行った。

市民協働による資料収集・整理・企画準備・ワークショップの実施や「学びの収穫祭」における市民活動の成果発表が評価された。一方で、今後も継続して事業を実施することが求められた。

課題としては、個人利用者との協働や市民と研究者との交流機会の提供が挙げられた。

3 多様な主体との連携(37～45 ページ)では、「他機関・団体との連携」、「学校等への学習支援」について評価を行った。

幅広い機関・団体への講師派遣、展示、連携事業、職業体験、博物館実習生の受け入れ等が積極的に行われていることが評価された。一方で、学芸員が、専門家としての役割を十分果たせる体制づくりが求められた。また、さらなる連携強化が期待されている。

課題としては、貸出キットの広報方法や学校以外の貸し出しの検討、不登校の児童生徒への対応が挙げられた。

【今後の方向性】

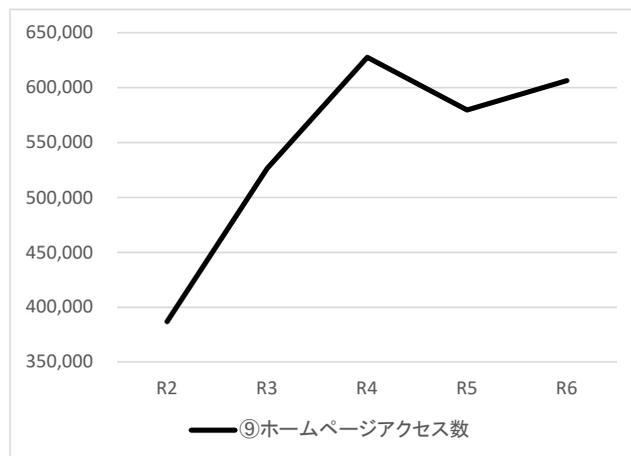
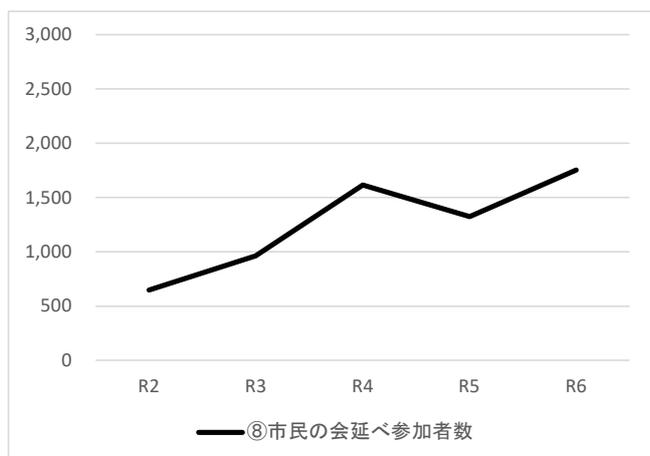
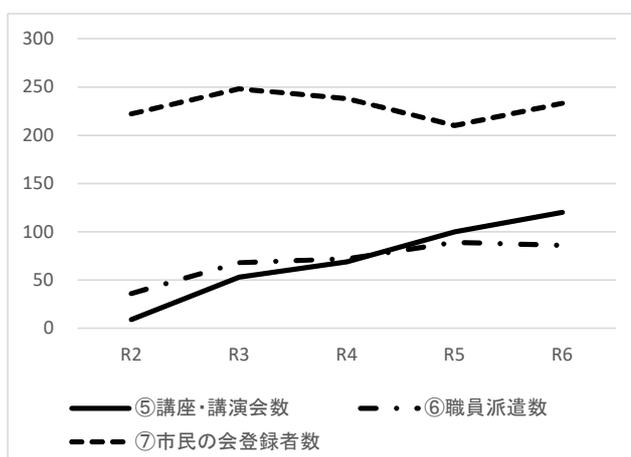
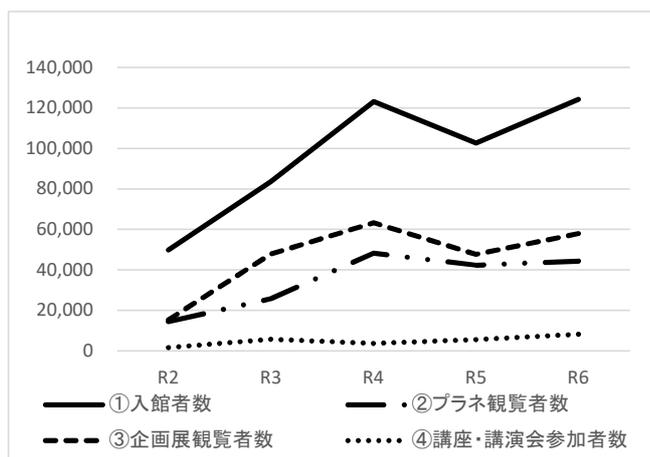
博物館の使命を果たすべく、今後とも市民の生涯学習活動に資するべく博物館の基礎的な調査研究・資料収集・教育普及事業を推進する。関連する諸機関との連携を深化し、地域博物館として市民と共に種々の課題を克服しながら、より安心・安全・快適な施設運営に努めていく。

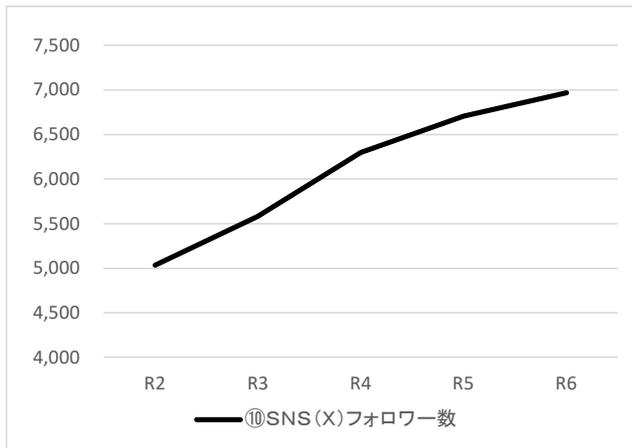
Ⅲ 相模原市立博物館活動評価

Ⅲa 定量評価

【定量評価(定量分析)資料(令和6年度)】

	項目	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	5年平均
①	入館者数	49,770	83,550	123,193	102,585	124,238	96,667
②	プラネタリウム観覧者数	14,323	25,700	48,147	42,313	44,294	34,955
③	企画展観覧者数	15,275	47,727	63,194	47,606	57,874	46,335
④	講座・講演会参加者数	1,542	5,667	3,685	5,432	8,144	4,894
⑤	講座・講演会数(延べ回数)	5(9)	7(53)	41(69)	52(100)	56(120)	32.2(70.2)
⑥	職員派遣(外部講師)数	36	68	72	89	86	70.2
⑦	市民の会数(登録者数)	9(222)	10(248)	10(238)	8(210)	9(233)	9.2(230.2)
⑧	市民の会延べ参加者数	649	963	1,615	1,324	1,753	1,261
⑨	ホームページアクセス数	386,706	526,359	627,459	579,594	606,337	545,291
⑩	SNS(X)フォロワー数	5,032	5,582	6,300	6,708	6,966	6,118





【令和6年度の数値について】

①	令和5年度は設備改修に伴う3か月の休館が影響し、来館者数が減少したが、6年度は4年度の並みに回復した。リニューアルのため12月から3月までプラネタリウムを休止していたが、プラネタリウム観覧者数が比較的少ない冬季であったため、来館者数への影響は軽微であった。
②	令和5年度は設備改修に伴う3か月の休館があったため観覧者数が減少した。6年度もリニューアルに伴う投影休止期間が5年度を上回る4か月に及んだが、対5年度で105%と観覧者数が増加した。要因としては、ドラえもんや名探偵コナンなど人気アニメの全天周映画が好調であったことが挙げられ、特に8～9月については5年度比約2倍の観覧者数であった。
③	令和5年度は設備改修に伴う3か月の休館があったため観覧者数が減少した。6年度も12月以降特別展示室でのミニプラネタリウムの運営のため、企画展を開催することができなかったが、対5年度で122%と増加した。要因としては「上溝番田の神代神楽」など優れたコレクションの一括展示や関連事業の充実が好評であったことが挙げられる。
④ ⑤	令和6年度は対5年度で講座講演会参加者数が150%、講座・講演会数(延べ回数)が120%といずれも増加した。主な要因としては、日野市や町田市との連携事業など、広域連携にも取り組んだことで、参加者層の幅を広げることができたことが挙げられる。
⑥	令和5年度には新型コロナウイルス感染拡大の影響以前の水準に回復しており、6年度もほぼ同数であった。
⑦ ⑧	令和4年度以降、2団体が活動を終了していたが、6年度に考古分野の市民の会が1団体新たに活動を開始し、登録者数や年間の延べ参加者数も増加した。新たな団体は、相模原市文化財調査普及員や当館の市民学芸員など様々な背景をもつ参加者で構成されており、交流の促進や学びの発展につながることを期待される。
⑨	令和6年度は、設備改修に伴う3か月間の休館があった5年度から約2万回増加し、約60万回となった。一方、令和4年度よりも減少が見られ、ホームページの魅力向上が課題となっている。
⑩	SNS(X)フォロワー数は令和元年度以降順調に増加している。

【5年間(令和2年度～令和6年度)の推移について】

・新型コロナウイルス感染拡大に伴う休館期間が令和2年度から令和3年度まで断続的に続き、再開時にも講座講演、プラネタリウム等の定員制限を設けたことから、すべての数値が減少している。令和4年度は回復傾向がみられるが、定員を少なく設定している事業もあり、コロナ以前と同水準には達していない。令和5年度はエレベーター工事に伴う3か月間の休館期間があり、令和4年度に比べてほとんどの数値が減少している。令和6年度はプラネタリウムの休止期間があったが、職員派遣数を除きすべての数値が増加に転じている。

・5年平均の数値はコロナ禍のさなかにあった令和2年～3年を含むため、傾向を知るための基準とはならない。また、エレベーター工事に伴う休館期間があり、コロナ後の回復傾向を検討する上では留意が必要である。

相模原市立博物館活動評価書(評価期間:令和6年度)

Ⅲb 定性評価

評価の数値について

- 4:特に優れた成果をあげている。また、その取組の成果が大いに期待される。
 - 3:優れた成果をあげている。また、その取組の成果が期待される。
 - 2:想定された相応の成果をあげている。また、取組のさらなる進展が望まれる。
 - 1:期待された成果に及んでいない。また、取組が不十分である。
- ※「段階評価」および「有識者評価」の数値は有識者による数値評価の平均点である。

有識者意見について

有識者からいただいたコメントを原文のまま記載した。

前回(令和5年度)の定性評価項目及び評価

評価項目	自己評価	有識者評価	段階評価
1 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動			
1-1 資料収集及び調査研究とその成果の公表			
1-1a 調査研究の遂行	3	3.4	3.1
1-1b 収蔵資料の充実	3	2.9	
1-1c 収蔵資料の活用	3	3.1	
1-2 施設・環境の維持管理			
1-2a 資料保管のための適切な環境の維持	3	3.0	3.0
1-2b 施設・設備の維持管理	3	3.0	
2 展示教育普及事業の推進			
2-1 企画展示・教育普及事業の実施			
2-1a 企画展示・ミニ展示の開催	4	3.9	3.9
2-1b 教育普及事業の実施	4	3.9	
2-2 宇宙教育普及事業の実施			
2-2a 宇宙分野関連の企画展示・ミニ展示の開催	4	3.7	3.8
2-2b 宇宙分野関連の教育普及事業の実施	4	3.9	
2-3 様々なメディアを用いた情報発信の取組			
2-3a インターネットによる情報発信	3	3.0	3.1
2-3b その他の情報発信	3	3.1	
3 市民との協働による博物館活動の展開			
3-1 市民協働による調査研究・資料収集活動			
3-1a 市民との協働による調査研究	3	3.0	3.1
3-1b 市民との協働による資料収集・整理	3	3.1	
3-2 市民協働による展示教育普及事業			
3-2a 市民との協働による教育普及事業	3	3.0	3.4
3-2b 市民との協働による博物館活動の成果発表	4	3.8	
4 市関連施設・機関との連携			
4-1 関連機関との連携			
4-1a 他機関・団体への講師派遣、協力	4	3.7	3.8
4-1b 他機関での展示	4	3.9	
4-1c 他機関と連携した事業	4	3.9	
4-2 学校等への学習支援			
4-2a 出前授業	3	3.0	3.1
4-2b 資料貸出による学習支援	3	2.7	
4-2c 見学・職業体験・教員研修・博物館実習生の受入	4	3.7	

令和6年度定性評価項目及び評価

評価項目	自己評価	有識者評価	段階評価
1 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動			
1-1 調査研究及び資料収集と活用			3.4
1-1a 調査研究の遂行	3	3.6	
1-1b 収蔵資料の充実・活用	3	3.3	
1-2 展示教育普及事業の実施			3.6
1-2a 企画展示・ミニ展示の開催	4	3.8	
1-2b 教育普及事業の実施	4	3.9	
1-2c 様々なメディアを用いた情報発信の取組	3	3.1	
1-3 宇宙教育普及事業の実施			3.9
1-3a 宇宙分野関連の企画展示・ミニ展示の開催	4	3.9	
1-3b 宇宙分野関連の教育普及事業の実施	4	3.9	
1-4 施設・環境の維持管理			3.8
1-4a 施設・設備の維持管理	4	3.8	
2 市民との協働による博物館活動の展開			
2-1 市民協働による調査研究・資料収集活動			3.1
2-1a 市民との協働による調査研究	3	3.2	
2-1b 市民との協働による資料収集・整理	3	3.0	
2-2 市民協働による展示教育普及事業			3.5
2-2a 市民との協働による教育普及事業	3	3.0	
2-2b 市民との協働による博物館活動の成果発表	4	4.0	
3 多様な主体との連携			
3-1 他機関・団体との連携			4.0
3-1a 他機関・団体への講師派遣・協力	4	4.0	
3-1b 他機関での展示や連携事業	4	4.0	
3-2 学校等への学習支援			3.4
3-2a 講師派遣や資料貸出による学習支援	3	2.9	
3-2b 見学・職業体験・教員研修・博物館実習生の受入	4	3.9	

1 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

1-1 調査研究及び資料収集と活用

段階評価：3.4

1-1a 調査研究の遂行

【主な取組】

・考古分野：勝坂遺跡や田名向原遺跡の史跡指定の周年事業を計画し、遺跡の調査研究を深め、それぞれ周年事業として実施した。明治大学博物館と合同で黒曜石の産地推定を行い、その成果を当館研究報告に掲載した。また、報告書非掲載資料を点検し、研究上重要な資料を抽出し当館研究報告に掲載した。

さらに、当館資料を含む旧石器時代終末の石器群について論考を執筆し、外部雑誌に投稿した。そのほかにも文化財保護課、神奈川県公園協会とともに津久井城跡城坂曲輪群7号曲輪の発掘調査を市民協働調査で実施し、当館エントランスにて調査成果の速報展を開催した。

相模原市域の石造物を対象とした盃状穴調査のため、市民調査隊を結成し、新磯野・古淵を悉皆調査した研究成果の一部を研究報告第33集に掲載した。昨年度に引き続き、市民協働でコクゾウムシの生育調査と野生のツルマメ・ヤブツルアズキの分布調査を行った。

・歴史分野：令和5年度に受入れた上諏訪久保田家旧蔵資料(尾崎行雄関係)について、成蹊大学非常勤講師と共同整理を行い、作成した目録と調査・研究の成果を研究報告第33集に掲載した。また、市民との協働による企画展「学習資料展」の開催にあたり、市制施行後70年間にあった市域の歴史的な出来事を調査し、その成果を展示した。

・民俗分野：寄贈された神楽資料について、福の会と相模里神楽垣澤社中と協働し、整理及び資料調査を行い、その成果を民俗企画展「上溝番田の神代神楽」にて公開した。

また、令和6年度に地質の学芸員と共同で実施した、相模原市内および周辺地域の関東大震災関係の石造物の調査・研究成果の一部を研究報告第33集に掲載した。

・生物分野：市内の動植物相調査を実施し、その中で明らかになった市内に生育・生息する絶滅危惧生物の保全、増殖事業を近隣大学等と連携しながら実施した。また、博物館周辺の樹林地(留保地)において大学等と協力して動物生態調査を実施した。研究成果の一部を研究報告第33集等で報告した。

・地質分野：相模原市内、相模川・桂川流域及び関東平野西縁部の地形地質調査を実施した。調査・研究成果の一部は日本地質学会第131年学術大会で報告した。また、令和6年度に民俗の学芸員と共同で実施した相模原市内および周辺地域の関東大震災関係の石造物の調査・研究成果の一部を研究報告第33集に掲載した。相模野台地の微地形調査は相模原地質研究会と協働で実施した。富士相模川泥流および御殿場泥流については東京都立大学との共同研究を行った。

・天文分野：プラネタリウムのリニューアルや企画展を行うにあたり、旧投影機器群の資料化

及び体験型展示物化に向けた調査を行った。

また、ミニ展示「日本初！小型月着陸実証機 SLIM の月面着陸成功」の開催にあたり、探査結果などの調査を行った。

自己評価:3

【有識者意見】

- ・博物館の運営の基盤となる調査研究の重要性は言うまでもありません。各専門分野の学芸員の方々が市民との共同調査や大学等の関連機関との連携研究を行い、発表や研究報告としてまとめることは、その労力を考えるともっと評価されて良いでしょう。「研究報告集」等をもっとホームページ上でも閲覧者の目につく工夫をしたら良いと思います。
- ・調査研究は学芸活動の基本を支えるものであり、博物館の重要な機能の一つである。博物館は多くの教育普及事業や展示を行っているので、学芸員がオーバーワークとならないよう、行政や管理者には是非理解を願いたい。学芸員の専門性を担保する上でも、他機関や施設との共同研究ならびに学会への参加や研究報告が積極的にできる環境整備を望む。
- ・市民や大学と共同で活動することで、より広く深い事業への発展も期待できると考える。
- ・生物分野で、絶滅危惧種の保全・増殖のための調査に関して大変興味深い。個人的には野外で外来種の動植物を見つけた場合に市民としてどうすればよいのか、理由を含めた具体的な行動例を知りたいと思う。
- ・博物館のバックボーンとなる調査研究及び資料収集がしっかりなされ、成果の発表までなされていることは十分評価に値すると思う。
- ・市民との共同調査や、関連機関との連携研究、分野を超えた共同研究が着実に推進されており、総合博物館である意義を踏まえ、さらに推進して頂きたい。
- ・館内はもとより、学会や館外で報告することも重要で、博物館の研究水準の向上や社会的評価を高めていくことにつながるものとなる。
- ・広くなった市域を俯瞰した調査研究が数多く成されていて、こうした研究の成果が博物館の事業を面白くしていると思います。
- ・外部との連携を積極的に行い、その調査・研究成果もしっかりと報告されており、高く評価できる。今後も継続して行ってほしい。
- ・調査研究は市民が誇れる「相模原コレクション」の形成をめざし、中・長期的計画をもとに実施されるべきである。職員体制や事務事業の多さに課題も多いが、博物館本来の基本的役割である「調査研究」を期待したい。
- ・各分野とも、地道な調査・研究を積み重ねており、その成果を報告したり、公開したりしている。
- ・資料調査研究経費が924千円という厳しい予算状況の中でも、相模原らしい調査を行い、成果を挙げていると評価出来る。
- ・学芸員も研究者として、館内はもとより、学会や館外で報告することも重要であり、それが博物館の研究水準の向上や社会的評価を高めていくことにつながる。

有識者評価:3.6

1-1b 収蔵資料の充実・活用

【主な取組】

(収蔵資料の充実)

- ・博物館全体：令和 6 年度末の時点で博物館収蔵資料点数は 256,372 点(前年度比 1.007%増)。特に増加したのは動物の昆虫標本資料であり、約 1,000 点の新規登録。
- ・考古分野：発掘調査報告書刊行済の出土品の受入及び再整理、寄贈資料の整理作業、鉄製品の保存処理。
- ・歴史分野：寄贈・寄託(予定含む)資料の分類整理、尾崎行雄(号堂)関係資料の分類整理。
- ・民俗分野：民俗資料の収集、収蔵資料のカード・収蔵番号の整備、旧津久井郷土資料室所蔵資料の確認等の諸整理。寄贈された竹細工道具の整理。
- ・生物分野：動物資料の収集及び標本の作製・整理、適正な保管を目的とした点検作業、サイエンスミュージアムネット(S-Net)及び GBIF への標本データの提供。植物資料の収集及び標本の作製・整理、適正な保管を目的とした点検作業
- ・地質分野：地質資料の収集及び標本の作製・整理、収蔵資料の整理。
- ・天文分野：天体・天文現象・太陽の撮影やデータの整理、インターネットによる公開天文台ネットワーク等からの画像収集、プラネタリアムリニューアルに向けた全国のプラネタリアム設置状況及び最新機器の情報収集や整理

(収蔵資料の活用)

- ・他館への資料貸出、調査研究のための資料閲覧、写真データの提供等、令和 6 年度の資料の特別利用は 98 件。
- ・収蔵品を活用した尾崎行雄の収蔵展や上溝番田の神代神楽の民俗企画展等、特別展示室での企画展を 5 件、エントランスや常設展示室内等でミニ展示を 19 件、開催。

自己評価：3

【有識者意見】

- ・収集資料の活用のためには、収集のみならず整理・再整理はとても重要です。地道な活動ですがしっかりなされていると思います。その過程で、国立科学博物館での『ニホンオオカミ』再発見や、北海道の博物館の資料から新種の恐竜化石が発見され全身骨格の発見に至るような、新たな発見や研究が市立博物館から生まれることを期待します。
- ・『上溝番田の神代神楽』に関する資料収集と企画展等への活用は素晴らしかった。
- ・相模原を知ろうとする人や相模原の明日を考える人にとって必要な、相模原の文化や自然を次世代に伝達するには、どのようなコレクションが必要なのかを検討して資料収集は行う必要がある。それが相模原の博物館の存在意義だと思う。
- ・昔の資料だけでなく、平成・令和期の資料収集も必要なので、今後も計画的な収集をお願いしたい。積極的に資料の提供を市民に呼びかけるなどして、失う前の収集を検討してほしい。
- ・収蔵資料類のストックは増加傾向にあると思われるが、現状の収蔵庫での収蔵能力が限界

を超える懸念があるならば、新たな収蔵スペースの確保は急務である。統廃合で廃校となった教室などの再利活用も一考であろう。

- ・分野ごとの収蔵資料は、データベース化した上で、全分野を統合して一括管理・利用できることが望まれる。
- ・新たな資料を収集するだけにとどまらず、再整理や点検にも力を入れていることで、資料の収集、保管という博物館の役割を果たしていると思う。
- ・収集資料の整理は、地味で時間のかかる仕事ですが、それが今後の活用の源となるので今後も頑張ってやってほしいと思います。
- ・日本の博物館の大きな課題の一つに収蔵庫問題がある。当館も開館30年近くを迎え、収蔵庫が満杯に近づいてきており、増設について検討を進める時期に来ていると言える。
- ・膨大な資料の整理が博物館を支える大切な仕事だとあらためて思います。
- ・充実した博物館の事業を行うため、中・長期的な資料収集の方針が必要かと考える。当館の特徴や役割の明確化、他館との差異化(必要な資料は他館に寄贈など)も検討するとともに、後世のために可能な資料はデジタル化も推進してほしい。
- ・収蔵資料の充実と活用こそ、市民が誇れる市立博物館の存在意義である。国立や他県、他市町村などで「見れない」「活用できない」相模原ならではの資料群「コレクション」の形成を目指してください。収蔵資料の分類や整理に追われることなく、博物館の基本的役割である「資料の収集と活用」に期待する。
- ・どの分野も、収蔵資料の充実、及び活用に努めている。
- ・まだ日の目を見ていない資料が今後の展示や講座、研究等に活用されることを期待しています。
- ・収蔵庫問題は、日本の博物館全体の課題でもあるが、開館 30 年を迎えて収蔵庫が満杯に近づいてきており、増設について検討が進められることを期待したい。
- ・生物・天文分野で着手されているようであるが、改正博物館法で重要視されている博物館 DX 化の一環として、資料等のデジタルアーカイブ化と公開を全分野で推進されたい。

有識者評価 3.3

段階評価: 3.6

1 - 2a 企画展示・ミニ展示の開催

【主な取組】

※天文分野を除く(天文分野 1-3a)

・企画展示

・生物分野、歴史分野、民俗分野の企画展、学習資料展を開催。観覧者数 39,611 人、入館者数全体の来場者数の割合は平均して 44.7%(前年度は 48.7%)。

・講演会、ワークショップ、展示解説等、プラネタリウム公演を企画展関連事業として実施。

・ミニ展示

・考古分野、歴史分野、市史分野、博物館実習生のミニ展示を開催。

・講演会、ワークショップ、展示解説等をミニ展関連事業として実施。

・「尾崎行雄を全国に発信する会」へ委託し、ミニ企画展「第 2 次憲政擁護運動と尾崎行雄」を開催。

・吉野宿ふじや

・「NPO 法人ふじの里山くらぶ」へ委託し、企画展を開催。

・「甲州道中(相模湖・藤野・上野原)のおひな様」展、観覧者数 471 人

また、ふじの里山くらぶ主催で「加藤清明水彩画」展を開催。観覧者数 307 人

【市民の意見】

(企画展アンケートより)※歴史分野はミニ企画展のためアンケートなし

・クリハリリスの生態や被害のことがよくわかりました。とても分かりやすかったです。いい勉強になりました。(生物企画展)

・様々な生物の姿や、様々な土地での様子を見ることができ、面白かったです(生物企画展)

・相模原にもこれほど本格的な御神楽があったのだと、面、衣装などの展示物などにより知りました。亀山社中が解散してしまったのは残念ですが、諸事情あるのは理解できます。後世に残していくべき伝統文化について考える機会となりました。(民俗企画展)

・神楽の歴史を知る事ができ、そこにこめる情熱が感じられてとてもよかった。この地に伝わる伝統をどんどん紹介してほしい。私もこれを見るまで知らない事ばかりだった。(民俗企画展)

・地方の伝統芸能をぜひ継承したいと思いました。(民俗企画展)

・亀山家の神楽の基本、全体像がわかる良い展示だった。扱いづらい神楽をテーマによく展示を構成されているなどと思いました。なかなか難しいとは思いますが、今回整理した資料からわかる面しばいと歌舞伎との関係に焦点を当てた第二弾があると嬉しいなど思いました。(民俗企画展)

- ・天井のシアター部が効果的に使われていて、この世界にどっぷりひたることができました。又、ギリシャ神話との共通点も紹介され、神話(日本)の魅力が伝わりました。素晴らしい体験ができ、本当に嬉しかったです！(民俗企画展関連事業)
 - ・昔から受け継がれてきたものの大きさをとても感じました。楽器も舞も衣装も美しく、今日見ることができて嬉しかったです。(民俗企画展関連事業)
 - ・こういうのは初めてみたので、びっくりと驚きました。とても良かったです。字幕が出ていたので、耳の聞こえない私にも良かった。楽しめました。(民俗企画展関連事業)
 - ・親子で一緒に見ました。それぞれの世代の給食について互いに話しながら見ることができ、楽しかったです(学習資料展)
 - ・大人も子供(小学生と中学生)も給食についての話で盛り上がりました。黒電話を使えたことも懐かしかったです(学習資料展)
- (吉野宿ふじやアンケートより)
- ・これからも地域に関係した企画をしていただけると嬉しいです。
 - ・歴史あるものが、今も大切にされ、このように見る機会があり、嬉しく思います。
 - ・いつもながら、古くても新しく見える人形に感激いたしました。ずっと続けてください。

自己評価:4

【有識者意見】

- ・プラネタリウムで神楽「神話から見る神々の世界」と連携した「上溝番田の神大神楽」展はとても良いものでした。展示準備を見せていただいたが、展示しきれない多くの貴重な資料があり、今後も第2弾第3弾・・・と続く企画展を開いていただきたい。
- ・新規収蔵資料披露目展示「ツキノワグマ」は、タイムリーで興味を引く展示です。さらに、下に鏡を置くなどの工夫で「足の肉球や爪はどうなっているのか」といった素朴な疑問に答えられる工夫もあればと思いました。
- ・「相模原に生まれた偉人尾崎行雄(号堂)新規収蔵資料展」では、近藤日出造による『尾崎先生像』など貴重な資料が展示され、郷土の偉人について又野にある号堂記念館とともにもっと市民に知られたらと感じました。毎年ポトマック川の桜は話題になりますが、送付に尽力した尾崎の印象が薄いのは残念です。
- ・ミニ展示という取り組みにより、貴重な標本・資料類が臨機応変の対応ができる速効的な展示効果を期待できると思うので、今後も期待したい。
- ・新収蔵品をいち早くミニ展示等で活用している点は高く評価されます。
- ・可能な限り企画展やミニ展示を実施したことは高く評価できる。
- ・来館するたびにエントランスのミニ展示が目新しく、効果的であると思う。企画展やミニ展示の成果を常設展示に反映されるような取り組みが今後必要であろう。
- ・アンケートの内容からも、来館者にとって非常に満足度の高い展示であったことが伺える。
- ・ミニ展示は身近で親しみやすいものから、啓発や問題提起するものまで幅広く取り上げられていて見ごたえがあり、面白かったです。

- ・企画展示・ミニ展示はタイムリーで工夫が凝らされており、素晴らしいものばかりで評価に値すると思います。是非大勢の観覧を期待したいところです。
- ・収蔵品展や企画展にとどまらず、予算を増強した特別展の開催を切望する。
- ・吉野宿ふじやでの企画展やミニ展示会などのイベントもさらに充実させてほしい。
- ・民俗企画展『上溝番田の神代神楽』は上溝に住むものとして嬉しい事業でした。プラネタリウム、民俗学講演会、民俗企画展、と事業が組みまれていて魅力的でした。
- ・「民俗企画展」では、プラネタリウムで神楽を鑑賞するという画期的な内容で、伝統芸能と新しい技術がその魅力や特徴を生かしながら違和感なく融合し、神話の世界を改めて魅力的なものとして感じる事ができた素晴らしい企画だと思った。伝統芸能はもちろん、音楽、バレエ、朗読、瞑想等これからの企画の可能性を大いに感じた。
- ・参加者のアンケートにもありましたが、多様な方々(障害者、外国等の方など)が気持ちよく利用し楽しめるように、今後も展示方法や説明に配慮ができるとうい。
- ・市民の身近な、そして意外な発見ができる展示ができました。
- ・企画展示やミニ展示では、様々な工夫により、観覧者からも高評価を受けていることが市民の意見から読み取れる。
- ・興味深い企画展やミニ展示が多い反面、来館者数に対して来場者数の割合が半分以下なのが残念です。入口に来館者の目を引くような工夫があると、もっと多くの人が入場してくれるのではないかと思います。
- ・クリハラリスの企画展はとても勉強になり、外出先で野生のリスを見かけると見分けがつくようになりました。今後も環境問題や注意喚起として取り上げてもらえたらありがたいです。
- ・収蔵品展や企画展にとどまらず、予算を増強した「特別展」開催の復活を切望する。

有識者評価: 3.8

1-2b 教育普及事業の実施

【主な取組】

※天文分野を除く(天文分野 1-3b)

- ・考古分野の講座(2回、参加者数 22 人および 150 人)および連続講座(全 2 回、延べ参加者数 14 人)を実施。
- ・歴史分野の連続講座(全 4 回、延べ参加者数 208 人)を実施。
- ・地質分野の連続講座(全 4 回、延べ参加者数 81 人)を実施。
- ・講演会を 6 件開催(考古分野1件、歴史分野 2 件、民俗分野 1 件、生物分野 1 件、生物・地質分野1件)。延べ参加者数 430 人。
- ・体験学習を 44 件開催(考古分野 20 件、歴史分野 3 件、民俗分野 6 件、生物分野 2 件、地質分野 4 件、その他 9 件)。延べ参加者数 4,806 人。
- ・生物分野の観察会(全 13 回)を開催。延べ参加者数 212 人。
- ・クイズラリーを 2 件開催。延べ参加者数 1,263 人。
- ・常設展示室へのスマートフォン等を活用した多言語対応の展示ガイドを 3 件追加

【市民の意見】

(講座等アンケートより)

- ・3 年程前に相模原の方に越してきました。自分が住んでいる地域について知ってみたいと思い、今回参加させていただきました。図形や地図があり、それを元に話してくださったので楽しく聞けました。(講座:考古分野)
- ・地質学に興味があり、本や資料で勉強しているが、自分一人で現地へ行ってもさっぱりわからないことが多いので、このような講座はとても嬉しいです。神奈川県最古の地層について包括的な内容になっていたのもとても興味を持てた。(講座:地質分野)
- ・座学 2 回の他に野外観察が 2 回有り、実際に、自分の目で地層を見ることが出来、より地層が身近に感じられた。(講座:地質分野)
- ・論理的な研究、実験データに基づいたお話に納得できました。(講演会:生物分野)
- ・休憩はなかったけれども、とてもききごたえがありました。映像などもっとみてみたかったです。(講演会:民俗分野)
- ・犬という生物をいつもとは異なる視点から魅力を感じました。直接研究には関わることはできませんが、より深く知りたいと思いました。(講演会:生物分野)

自己評価:4

【有識者意見】

- ・学習資料展「相模原 70 年と学校給食のあゆみ」はとても良かった。親子での来館者も多く、各世代の給食や学校の様子を楽しそうに話す様子はとても微笑ましかった。携帯電話世代の子供たちには黒電話も珍しく、帰宅後の会話の良いきっかけになったのではないでしょう

- か。見学後もコミュニケーションが弾むような展示や企画が良いものだと思います。
- ・体験学習で実施された「博物館で Feel 度 walk」は、年齢に関係なく参加でき、新たな展示物等の見方を参加者・主催者相互に発見するとても良い企画だと思います。今年度は 2 回で参加者もまだまだ少ない様だが今後もぜひ続けていただけることを期待します。
 - ・講座・講演会・体験学習・観察会など様々な取組みを計画し実施することは、対象者の想定や内容の吟味などとても大変なことだと察せられます。今後も市民の声に寄せられたように、参加者が楽しく学べる活動に大いに期待いたします。
 - ・麻布大学いのちの博物館×相模原市立博物館連携記念講演会 Vol.2「ヒトとイヌの絆 最新研究が示す、特別な関係の現在、過去、未来」では、興味深い内容に加え、参加の高校生からとても良い質問が飛び出したりなどして素晴らしい講演会でした。
 - ・市民にとって、学芸員の話や資料や標本に触れたりする学習はとてもインパクトのある体験となって記憶されるので、今後もより多くの講演や体験学習などを実施していただきたい。
 - ・初学者からより深く学びたい人まで幅広い層がいて、新たな教育普及のための内容を考えるのは大変だろうと思う。このような取組みがあることで、どんな市民でも教養を得られる機会があるのは有難い。
 - ・タイムリーなテーマで企画されていて、参加者の満足度が高いのを感じました。
 - ・講演会・体験学習・観察会等、それぞれの企画にあった事業の展開はとても良いと思います。参加者の期待する内容や基礎知識の違い等を考慮して企画するのは大変ですが、体験や成果物を持ち帰れることは、家庭での話題等への発展も大いに期待できることでしょう。
 - ・昭和初期の家庭用品等の常設展示を実際に触ってみようなど、常設展示の活用を図ってはどうか。
 - ・博物館ならではの体験型を中心とした市民向け事業のさらなる展開を期待したい。
 - ・参加者数が多かった歴史分野の講座は 4 回開催としたことが興味深い事業になったのではと思う。
 - ・今後も、相模原市への愛着が深まる講座や、学問的興味や関心が高まる講座を開講するとともに、講座の案内を多くの方に周知できるように創意工夫を継続して欲しい。
 - ・市民に「知らせたい」だけでなく、市民が博物館に求める「今、知りたい」が何であるのかをキャッチする仕組みを構築し、民間事業者や図書館、公民館ではできない博物館ならではの学習プログラムとその成果を期待したい。
 - ・教育普及事業においても、様々な工夫により、参加者のニーズに応えられていることが市民の意見から読み取れる。
 - ・博物館 DX 化の一つと考えると良いと思うが、常設展示室へのスマートフォン等を活用した多言語対応の展示ガイドが追加されたが、利用者の利便性の向上に一層努めて欲しい。

有識者評価: 3.9

1-2c 様々なメディアを用いた情報発信の取組

【主な取組】

(インターネットによる情報発信)

- ・プラネタリウムの番組情報や混雑状況、イベント情報の発信や、天体・天文現象の写真や動画、博物館の日常の風景や展示等を紹介。主な媒体は下記のとおり。
 - ・博物館のホームページ
 - ・X(フォロワー数 6,966)※令和 7 年 3 月末時点(前年同期+258)
 - ・Instagram(フォロワー数 744)※令和 7 年 3 月末時点(前年 5 月以降+234)
 - ・「相模原市立博物館の職員ブログ」
 - ・「ネットで楽しむ博物館(公式 YouTube チャンネル)」(配信動画数 1 件)

(その他の情報発信)

- ・プラネタリウムを利用した朗読会を計 1 事業(参加者計 285 人)、プラネタリウム等で星空を楽しみながら行うヨガ事業を 3 件(参加者計 195 人)実施。
- ・市シテプロモーション戦略課等と連携し、「宇宙を身近に感じられるまち さがみはら」と博物館を PR する「はやぶさ WEEK」や「宇宙フェスタ さがみはら」を開催した。
- ・指定・登録文化財となっている建造物や展示施設を巡る「古民家でおひな様 春のお出かけスタンプラリー」を開催し、施設の相互 PR を行った。
- ・広報さがみはらへの博物館諸活動の掲載
- ・事業の開催情報など報道機関向けプレスリリース7件
- ・1 か月分の博物館の事業を一覧できる資料として、「博物館イベントニュース」の発行(年 12 回)
- ・タウン紙への企画展紹介コラムや常設展示紹介等の不定期連載
- ・FMHOT839(エフエムさがみ)、NHK、TBS、テレビ朝日等のテレビ、ラジオ番組への出演や資料提供

自己評価:3

【有識者意見】

- ・インターネットによる情報発信は今や常識となり欠かすことが出来ません。それだからこそ閲覧者の立場からより見やすく、トップページの写真を増やすなど、興味をそそるさらなる改良が必要だと考えます。
- ・「古民家でおひな様 春のお出かけスタンプラリー2025」に初めて参加しました。長年相模原・津久井に住みながら訪れたことのない素晴らしい古民家等を訪ねられて有意義なものとなりました。特に相模田名民家資料館の展示は圧巻でした。出来れば、各会場のスタンプがオリジナルであったらもっと良かったと思います(ハテナ館のみオリジナル)。
- ・プラネタリウムを利用した朗読会 朗読プラネタリウム「星空のジェイクとちいさなジーコ」や星空を楽しみながらのヨガ、プラネタリウム de ベビーヨガなどプラネタリウムと柔軟な発想の企画のコラボレーションがとても良いものです。継続と新たな発想の企画を期待します。

- ・クリハラリスの話題が全国ネットに載ったことはタイミングといい、内容といい良かったですね。
- ・ホームページや動画は、若い世代に向けて情報発信をするためには有効な手段である。できるだけ若い世代の意見を取り入れて、随時内容の更新を図るべきである。
- ・スマートフォンでホームページを閲覧する方も多いので、フォントや色使いなどスマートフォンでも見やすくなるような工夫をするべきである。また若い世代には SNS を活用した情報発信が効果的なので、さらなる活用を検討してほしい。
- ・「ネットで楽しむ博物館」は動画で楽しむこともできるので、理解しやすい。今後も内容の充実をお願いしたい。
- ・SNS を活用した情報発信は、イベントだけではなく研究成果なども含めた博物館の価値を提供すべきである。
- ・小中学校でもタブレットやパソコンが授業に取り入れられているため、日常的な学習の一環として、博物館の動画を教材として使うことができれば良いと思う。
- ・HP や SNS は博物館を知る一番身近なツールで、費用対効果を考えても今後も充実していったほしい。「いいね」を押すだけでなく、画像を見て来館に繋がるようになっていったほしい。
- ・博物館の X をフォローしています。こまめに更新されていて頭が下がります。これからも頑張ってください。
- ・ホームページや SNS による情報発信は今や常識となり、博物館のそれらも充実していると思います。ただ、これらはネット上に乗せれば見てもらえるものではなく、そこに見に行かなければ情報が得られないという特徴があり、いかに見てもらえるきっかけを作るかがポイントだと思います。予告についてはチラシの画像で良いと思いますが、実施した企画等の様子を是非ホームページの本体で見られるようにしていただけないでしょうか。インスタグラム等はログインが必要なもので、せっかく面白そうな内容に直接行けません。QR コードは便利ですが、一つのサムネイル画像でも配置すると良いと思います。
- ・若者に向けた情報発信には欠かせないものであり、フォロワー数の一層の増加に期待したい。
- ・なかなか博物館に行くことができませんのでホームページをみます。職員ブログは楽しいので最初に読んでいます。毎回、充実した内容で面白いです。
- ・魅力的な企画がたくさんあり、様々な人たちに足を運んでもらえるのが理想だが、自分で情報を取りに行きにくい高齢者、障害者等の方々にも足を運んでもらえる工夫はないものかと思っている。(各事業所への周知の工夫等)
- ・情報発信者に偏りが見える。すべての学芸員が日常の活動を気軽に発信できるよう、リーダーは各学芸員を指導育成すべきだ。
- ・様々なメディアを用いた情報発信の取組についても、努力が認められる。
- ・ブログや X の更新を楽しみにしています。忙しい中の更新は大変だと思いますが、博物館の情報を知るツールとして、今後ますます需要が高まるのではないのでしょうか。
- ・フォロワー数は微増傾向にあるが、一層の増加を期待したい。

有識者評価:3.1

段階評価: 3.9

1 - 3a 宇宙分野関連の企画展示・ミニ展示の開催

【主な取組】

- ・JAXA が所蔵する小型月着陸実証機 SLIM 1/8 模型や SLIM 燃料・酸化剤一体型タンク実物機器等を借用し、特別展示室にて JAXA 連携ミニ展示「日本初！小型月着陸実証機 SLIM の月面着陸成功」を開催。総観覧者数 18,263 名。
- ・令和 6 年 12 月 3 日(火)～令和 7 年 6 月 29 日(日)はプラネタリウム改修工事による投影休止のため、特別展示室に設置した 9m エアドームによるミニプラネタリウム(定員 45 名)を無料で投影。
- ・「全国小・中学生作文絵画コンテスト」(JAXA 事務局)において、当館に応募された 34 作品のうち、館内審査で入賞した 14 作品を展示。
- ・JAXA 相模原キャンパス宇宙科学探査交流棟内の博物館資料展示スペースにおいて、「キャンプ淵野辺の返還[歴史分野]」(令和 6 年 2 月～)を開催。

【市民の意見】

(ミニプラネタリウム[9m エアドーム]のアンケートより)

- ・生解説はやはり感動的です。
- ・知らないことなど分かりやすく、優しい声で学ばせてもらいました。ミニプラネタリウムも初めてで、とても面白い体験でした。
- ・ミニプラネタリウムは首が少し疲れましたが、映像の見え方が一般のプラネタリウムと違って面白く感じました。投影時間の長さがちょうど良いと思います。
- ・首と腰が痛くなった(当館大会議室の背もたれ固定イスをミニプラネタリウムに設置)。
- ・思ったよりも広く、楽しめました。子どもも気兼ねなく楽しめてとても良いと思います。リニューアル楽しみにしています。
- ・プラネタリウム工事中でも観覧できる場所、そして無料というサービスに感謝しかないです。
- ・小さなスペースでも楽しめました。とてもわかりやすくて良かった。
- ・空気でふくらませるプラネタリウムがおもしろかった。

自己評価: 4

【有識者意見】

- ・JAXA の小型月面着陸実証機 SLIM 関連では、子供も大人も興味を引く内容で、多くの観覧者・参加者を楽しませたのではないのでしょうか。
- ・プラネタリウムのリニューアルに伴うハンデを、ミニプラネタリウムを活用しての投影といった小さな設備の特徴を生かした取組みで見事にカバーしたと思います。今後も、それぞれ

の特徴を生かした活動を継続して欲しいものです。

- ・プラネタリウム工事中にもかかわらず、エアドーム形式でのミニプラネタリウムの開催という意欲は大いに評価されてよい。さらにそこでの投影も参加者には比較的好評だったことも高評価である。
- ・JAXA との連携も重要であるが、JAXA に頼らない博物館独自の企画を展開し、次世代につなげていくことも検討してはどうか。博物館独自の事業のアピールも進めていくべきである。
- ・情報の移り変わりの多い宇宙についての展示はとても楽しく、来るたびに新しいことを知ることができるため、今後も継続してほしいと思う。
- ・JAXA との連携は、互いの立地を生かすべきで、これからも創意工夫をして様々な展示を期待しています。博物館としての特徴をどのように企画の中に生かしていくかが重要かと思えます。
- ・改正博物館法でも強化されているが、JAXA や麻布大学いのちの博物館など関係機関との連携展示の取り組みは、今後も推進されることを期待したい。
- ・市民の意見を見ると、体験として大変喜んでいのがわかり、リニューアルする間だけのものにするのはもったいないような感想が見られる。リニューアル工事中に、プラネタリウム投影を中断するのではなく、このような特別な記憶に残るような企画として実施したことは大変意義深い事だったと思う。
- ・プラネタリウム改修工事中のミニプラネタリウムが好評であったことから、今後も館外での講座として位置づけられないか。
- ・市民が楽しく学習できた様子が「市民の意見」から確認できる。苦言や提案はありませんでしたか。
- ・プラネタリウム改修工事期間に、エアドームによるミニプラネタリウムを無料で投影したことは、大変良い取り組みであったことが市民の意見からも伝わってくる。
- ・プラネタリウム工事中でもミニプラネタリウムによる観覧ができて良かったです。
- ・プラネタリウム改修工事中もミニプラネタリウムを設置して、市民に投影を続けたことは高く評価できる。

有識者評価: 3.9

1-3b 宇宙分野関連の教育普及事業の実施

【主な取組】

- ・JAXA 宇宙科学研究所と連携した講座 6 件、講演会 4 件を実施。講座延べ参加者 659 人、講演会延べ参加者 504 人。
- ・JAXA 相模原キャンパス特別公開における各種イベント等、JAXA と連携した体験学習事業を 4 件実施。延べ参加者 1,124 人。
- ・相模川ビレッジ若あゆとの連携事業「博物館×若あゆ 宇宙&野外炊事イベント」を実施。両施設を事業で利用。参加者 36 人。
- ・天体観望事業「星空観望会」を 13 回実施。延べ参加者 906 人。
- ・昼間の天体観望事業を実施。参加者 35 人。
- ・「親子天文教室」を実施。参加者 41 人。
- ・プラネタリウムおよびミニプラネタリウムにおける星空解説の実施、全天周映画の上映。観覧者数、プラネタリウム 44,294 人、ミニプラネタリウム 8,373 人。うち、10,451 人が学習投影等団体向け貸切投影)。
- ・プラネタリウムにおいて日曜日・祝日限定の「おためしタイム」事業を実施。観覧者数 2,012 人(計 46 回投影)。

【市民の意見】

(親子天文教室アンケートより)

- ・お話も作り方の説明もとても面白く分かりやすかったです。星空観望会に参加した時にイベントを教えてもらって、参加できてとても興味深かったです。今日は雨で残念でしたが、使ってみます。
- ・子どもにもわかりやすく、ゆっくり進めていただけたので良かったです。雨が降ってしまったのは残念でしたが自宅や旅先でも観察したいと思います。
- ・星について知れたことが良かったです。自分だけで望遠鏡を作るのは大変だったので教わりながら作れて良かったです。
- ・親子で一緒に工作し、星の勉強もできたことがとても良い経験になったと思います。最後は外で星を見ることこそできませんでしたが、プラネタリウム内のいろいろな物をわりとササッと子供が見ることができていたので、そこも感動でした。

自己評価:4

【有識者意見】

- ・はやぶさ WEEK 関連事業 JAXA 研究者による特別講演会では、サンプルリターンミッションによるイトカワ・リュウグウの両サンプルを同時に見られるなど、相模原市立博物館ならではの JAXA 連携が注目されました。
- ・夏休み親子天体教室～手作り望遠鏡で月を見よう！では、なかなか普段家庭では取組めない内容を学べる機会として大変良い内容だと思います。博物館にいるときだけではなく

家庭での学習や会話が導ける内容の企画は素晴らしいですね。リニューアルされたプラネタリウムで学び、実際の夜空を見上げる子供たちや家族が増えると素敵ですね。

- ・プラネタリウムがある博物館という特色を生かし、宇宙や天文学が身近に感じられる各種事業やイベントが開催できるのは市民にとって多くのメリットがある。さらに多くの幅広い市民に関心や興味を持ってもらうために、プラネタリウムを活用しながら夜や昼の観望会、プラネタリウムでの音楽コンサートやトークショー、講演会などの新企画事業も積極的に開催すべきである。特にプラネタリウム施設を舞台にしたコンサートなどはユニークな取り組みとして話題性もあり、継続することでファミリー層や高齢者の市民への参加も促したい。
- ・「親子天文教室」のような、親子で楽しめて工作物・作品等を持ち帰れる企画を増やして行ってほしいと思います。プラネタリウムという特徴を生かしながら独自の試みは大いに評価できます。他のプラネタリウムを所有する博物館も参考になるものだと思います。
- ・展示同様、JAXA や相模川ビレッジ若あゆなど関連機関との連携事業の取り組みは、今後とも推進されることを期待したい。
- ・今後も JAXA との連携事業を推進しながら、天体観望事業などの宇宙教育普及事業を本市の大きな特色として重点的に推進してほしい。
- ・異常気象が今日的生活課題になっている。その原因や対応も宇宙教育には欠かせないテーマである。市民への積極的な情報発信を期待したい。
- ・様々、工夫したイベントの実施により、宇宙分野関連の教育普及に貢献していることが、市民の感想からも読み取れる。
- ・JAXA が近くにあるというのは博物館の魅力の一つとして大きいと思います。今後も両者の連携事業を楽しみにしています。
- ・若あゆとの連携事業は施設間の移動が大変ですが、とても素敵な企画なので今後も続けてほしいです。
- ・JAXA や相模川ビレッジ若あゆなど、関連機関との連携事業の取り組みが、今後とも推進されることを期待したい。

有識者評価: 3.9

1-4 施設・環境の維持管理

段階評価: 3.8

1-4a 施設・環境の維持管理

【主な取組】

(資料保管のための適切な環境の維持)

- ・収蔵庫及び作業室を対象に、各種トラップを用いて有害生物の侵入状況を調査。大型資料収蔵庫シャッター付近床面への薬剤散布の実施。
- ・カビ及び酵母を対象に空中浮遊菌検査の実施。
- ・大型資料収蔵庫、考古資料収蔵庫、地質資料収蔵庫、生活資料収蔵庫、動植物資料収蔵庫の空間殺虫処理の実施。
- ・受入資料を対象に、殺菌、殺虫、殺卵のため、ガス薬剤を用いて洗浄・乾燥室において被覆法によりくん蒸を実施。
- ・館内空調の根幹設備である冷温水発生機 2 基のうち 1 基を更新。令和 5 年度実施の 1 台と合わせて全ての更新を完了。

(施設・設備の維持管理)

- ・安心、安全な環境を維持し、さらに快適で魅力ある施設運営のため、下記の設備整備、修繕等を実施。
- ・博物館内にある全 3 台の油圧式エレベーターのうち 1 台を、機械室レス型のロープ式エレベーターに改修し、令和 5 年度実施の 2 台と合わせて全ての改修を完了。
- ・雨漏りの修繕、プラネタリウム内のトイレの洋式化、大会議室照明の LED 化、管理事務室の空調修繕、非常用発電機始動用蓄電池設備の修繕等を実施。

自己評価: 4

【有識者意見】

- ・限られた予算の中で、計画的に施設・設備の整備修理等がなされていると思います。
- ・各地で風水害の被害や地震などの災害は起きています。火山噴火による降灰は、たとえ遠方からの場合であっても甚大な被害を及ぼす可能性があります。神奈川県博物館協会では、相互連携を核とした防災計画を策定しているようです。貴重な資料をどのように災害から守るかは重要な課題だと考えます。
- ・博物館の延命措置として、定期的な機器の更新・改修・修繕は重要であり、引き続き継続してほしい。
- ・2 階の休憩スペースが「知る人ぞ知る場所」のようなイメージで、もったいない気がします。
- ・収蔵庫の修理や拡張等の予算処置を要望する必要があると思います。
- ・来館者に対する、より充実したサービスの一環として、スマートフォン活用による多言語対

応の展示ガイドの導入は必須項目である、これらの利活用を推進するためのPR や広報にもご尽力願いたい。

- ・各地で思いがけない災害が起こっています。相模原の博物館は大丈夫ですか。
- ・大きな施設・環境の整備が計画通りに実施できたことは高く評価できる。
- ・行政課題が肥大化するなか、基本的社会教育機関の役割が疎かになりがちな今日にあって、相模原市の社会教育に対する理解と対応は高い評価に値する。
- ・主な取組から、施設・環境の維持管理に、適切に取り組んでいることがうかがえる。
- ・今後も収蔵資料が増えていくことが予想されるので、収蔵庫の増床、増設についても検討する必要があると思います。
- ・冷温水発生機は、館内空調の根幹設備である。老朽化による交換が手遅れとなる前に、全ての更新が実現したことは評価したい。
- ・エレベーターについても、3 基すべて更新されたことは喜ばしい。

有識者評価：3.8

2 市民との協働による博物館活動の展開

2-1 市民協働による調査研究・資料収集活動

段階評価: 3.1

2-1a 市民との協働による調査研究

【主な取組】

- ・考古分野: 相模原縄文研究会との協働で縄文時代植生分布調査(野生のツルマメ、ヤブツルアズキ)やコクゾウムシの生育調査を実施。津久井城市民調査グループとの協働で津久井城跡城坂曲輪群の発掘調査を実施。ぶらり! 盃状穴調査隊を発足し市域の石造物を対象に盃状穴の有無について悉皆調査を実施。
- ・民俗分野: 福の会と協働で上溝番田の神代神楽資料の調査を実施。
- ・生物分野: 相模原植物調査会との協働で市域の植物相調査を実施。さがみホネホネ団との協働で博物館に保管している鳥獣の冷凍資料の調査を実施。
- ・地質分野: 相模原地質研究会と協働で市域の地形調査を実施。

自己評価: 3

【有識者意見】

- ・各分野ともフィールドワークが必須の調査研究が多く、近年の気象状況等を考えるとき、とても大変な活動だとお察しいたします。参加の市民の皆様もついつい熱心に調査集中されていることでしょう。くれぐれも事故等のないようにすすめていただきたいと思います。
- ・新聞によると、厚木市で夏休みシーズンに、『バイオーム』という無用アプリを使って市民参加型の生き物探しキャンペーンを行ったようです。博物館でもだれでも気軽に参加できるような取組みの参考になるのではないのでしょうか。(去年は川崎市が実施のようです)。
- ・市民協働は博物館活動の主軸の一つである。市民が博物館活動に参加することのメリットは博物館にとって非常に多い。多くの市民団体に支えられており、今後も協働で調査研究を遂行するようにお願いしたい。
- ・市民との協働による調査研究の成果は、「学びの収穫祭」を含む館内展示や報告書などの印刷物として公表するように努めてほしい。
- ・市民との協働は、地域博物館活動の根幹をなすものであり、一層の取り組みに期待したい。
- ・博物館を支える大勢の市民の方々に敬意と感謝をしたい。
- ・取り組みを見ていると、市民がグループと捉えられている感がある。博物館利用者の基本は図書館同様、個人である。困難性はあるが今後は個人利用者との協働にも期待したい。
- ・市民との協働による調査研究については、様々な取組が行われていることがうかがえる。
- ・市民との協働調査・研究は、地域博物館活動の根幹をなすものであり、引き続いて、一層取り組みが強化されることを期待したい。

有識者評価:3.2

2-1b 市民との協働による資料収集・整理

【主な取組】

- ・考古分野：相模原縄文研究会と協働で寄贈された考古資料の整理及び報告書非掲載資料の点検を実施。
- ・民俗分野：福の会との協働で寄贈された上溝番田の神代神楽資料の整理を実施。
- ・生物分野：相模原植物調査会と協働で標本作製・整理を実施。さがみホネホネ団と協働で博物館に保管されているものを中心に、鳥獣の冷凍資料の標本化を実施。
- ・地質分野：相模原地質会と協働でお茶の水女子大より寄贈された標本の整理を実施。
- ・天文分野：相模原市立博物館天文クラブと協働で、月面等の写真撮影及び資料化、身近に起きる天文現象の記録と資料化を図り、資料の保存事業を実施。

自己評価：3

【有識者意見】

- ・各分野に渡ってそれぞれの特徴を生かして活発に活動している様子がうかがえます。資料収集・整理は地味な活動ですが、それらが次の研究への基礎となることを踏まえ頑張ってください。
- ・『ホネホネ団』の活動は、他の博物館では中々取組めていないユニークな活動だと思われます。高校生も積極的に活動していること、その成果や活動の様子の発信が楽しみです。
- ・市民との協働による資料収集や整理作業は裏方で地味な活動ではあるが、博物館活動を支える大事な位置を占めるので、今後も連携して継続してほしい。
- ・収集資料の整理は今後の活用の上で重要なので、博物館のノウハウを生かして進めて行ってほしい。
- ・取り組みを見ていると、市民がグループと捉えられている感がある。博物館利用者の基本は図書館同様、個人である。困難性はあるが今後は個人利用者との協働にも期待したい。
- ・市民との協働による資料収集・整理については、様々な取組が行われていることがうかがえる。
- ・市民との協働した資料収集・整理は、地域博物館活動の根幹をなすものであり、引き続いて、一層取り組みが強化されることを期待したい。

有識者評価：3.0

2-2 市民協働による展示教育普及事業

段階評価: 3.5

2-2a 市民との協働による教育普及事業

【主な取組】

- ・博物館の資料収集や整理、保存等の専門領域をはじめ、展示教育普及事業に至る活動を協働で実施。
- ・市民学芸員: 学習資料展の企画・準備と関連事業を協働で実施。
- ・考古分野: 津久井城市民協働調査グループと協働で、通年の講習会や発掘調査およびその成果速報展示の準備・設営を実施。相模原縄文研究会と協働でワークショップを実施。
- ・民俗分野: 福の会と協働で資料整理及び民俗企画展の準備作業を実施。
- ・生物分野: 相模原植物調査会及び相模原動物標本クラブの協力により、ワークショップに使用する素材収集や、作成した標本を企画展等に使用。
- ・地質分野: 相模原地質研究会と協働で講座や教室の準備と運営を実施。
- ・天文分野: 博物館天文クラブと協働でイベントを実施。

自己評価: 3

【有識者意見】

- ・市民の会 9 団体とともに、資料収集・整理さらに企画準備やワークショップの実施などしっかりなされています。
- ・資料の特別利用が 110 件にもものぼっています。団体等に所属していない市民の方々の探求心に寄添った主体的研究への協働も必要なことでしょう。
- ・博物館活動の主体者である市民と共に創り上げていくことが大切です。
- ・あらためて大勢の市民の方々の協働に驚かされます。
- ・市民との協働による活動は、当館と市民の両者にとって有意義なものと考えてるので、今後も継続、活性化をしていってほしい。
- ・取り組みを見ていると、市民がグループと捉えられている感がある。博物館利用者の基本は図書館同様、個人である。困難性はあるが今後は個人利用者との協働にも期待したい。
- ・市民との協働による教育普及事業については、様々な取組が行われていることがうかがえる。
- ・市民との協働した教育・普及活動は、地域博物館活動の根幹をなすものであり、引き続いて、一層取り組みが強化されることを期待したい。

有識者評価: 3.0

2-2b 市民との協働による博物館活動の成果発表

【主な取組】

- ・市民による調査研究活動の成果発表の場である「学びの収穫祭」を開催。活動成果の発表、市民の会相互理解の推進、情報交換の場の確保。
 - ・11月24日：口頭発表
 - ・11月23日～令和7年1月31日：ポスター展示
- ・発表団体数、発表件数等は下記のとおり。
 - ・口頭発表：参加団体・個人数 7 団体、1 個人、発表件数 11 件
 - ・展示発表：参加団体・個人数 19 団体、2 個人、発表件数 33 件
- ・発表団体名：
相模原市立博物館市民学芸員 情報発信チーム、相模原市立博物館天文クラブ、相模原縄文研究会、相模原植物調査会、相模原地質研究会、さがみホネホネ団、福の会、麻布大学獣医学部 動物応用科学科 野生動物学研究室、大野村いつきの保育園、神奈川県立上溝南高等学校 生物探究部、神奈川県立相模原高等学校 科学研究部、神奈川県立相模原弥栄高等学校 サイエンス部、関東学院中学校高等学校 地学部、光明学園相模原高等学校 理科研究部、昆虫文化を子供たちに伝える会、相模原市自然環境観察員、城山公民館城山エコミュージアム委員会、東京科学大学附属科学技術高等学校 科学部、武蔵高等学校中学校 地学部、成城大学大学院文学研究科

自己評価：4

【有識者意見】

- ・『学びの収穫祭』関連の口頭発表・展示発表は素晴らしい取組みですね。発表者やポスターセッションの説明者と見学者とのコミュニケーションは、互いを成長させるとも良い機会になっていると確信します。益々盛り上げていただきたいと思います。
- ・「学びの収穫祭」での成果発表は有意義であり、是非継続することを期待するが、ポスター展示にとどまるのではなく、発表要旨集などの印刷物として成果を記録・保管していただきたい。
- ・市民協働は社会教育の本旨だと感じます。
- ・「学びの収穫祭」はネーミングも内容も素晴らしいと思います。今の発表の中心がポスターセッションなので、その特徴を生かして参加者と研究者が交流する場として生かして欲しいと思います。
- ・「学びの収穫祭」も博物館の伝統行事となり、参加団体が拡大していることは喜ばしい。市民との協働は、地域博物館活動の根幹をなすものであり、一層の取り組みに期待したい。
- ・発表団体が多彩であることに相模原の博物館の市民参画の歴史の蓄積を感じます。
- ・発表展示物は手作り感があってとても親近感がありました。
- ・「学びの収穫祭」では多くの高校が参加しており、多様な方々に活動成果を発表できる貴重な場になっている。今後も継続、活性化して欲しい。

- ・「学びの収穫祭」は相模原の博物館を代表するすぐれた活動である。今後は発表者の自律的(企画・運営など)発展と、多様な開催場所(関係機関や商業施設など)による展開を期待したい。
- ・博物館活動の成果発表は、主な取組から、多くの団体と協働し、積極的に行われていることがうかがえる。
- ・「学びの収穫祭」は各団体の発表の受け皿として大きな役割を果たしていると思います。
- ・「学びの収穫祭」は、当博物館の伝統行事となり、団体・個人ともにコンスタントに参加が継続されていることは評価できる。

有識者評価:4.0

3 多様な主体との連携

3-1 他機関・団体との連携

段階評価: 4.0

3-1a 他機関・団体への講師派遣、協力

【主な取組】

- ・他機関や団体からの講師依頼件数及び参加者延べ人数は、52 件 1,865 人。(学校への出前事業を除く。学校への出前事業 4-2a)
- ・環境情報センターの自然環境観察員制度や分科会調査に対し、専門の立場からアドバイスや会議出席。
- ・「古民家でおひな様 春のおでかけスタンプラリー2025」について、文化財保護課、相模湖まちづくりセンター、田名財産管理委員会、久保田酒造株式会社と連携して実施。
- ・石器文化研究会例会における市内遺跡の講師協力。
- ・各種団体の役員等は下記のとおり。
 - ・河川水辺の国勢調査アドバイザー
 - ・小田原市郷土文化館協議会委員
 - ・全国野生生物保護活動発表大会 審査会審査員
 - ・「神奈川自然誌資料 第 46 号」編集委員
 - ・全国野生生物保護活動発表大会 受賞式・発表大会アドバイザー
 - ・令和 5 年度自然史標本データベース神奈川委員会会議
 - ・日本地質学会代議員
 - ・地質学会関東支部幹事
 - ・神奈川地学会幹事
 - ・令和 6 年度愛鳥週間野生生物保護功労者表彰審査員
 - ・調査業務委託のプロポーザル方式審査会選考委員
 - ・縄文時代文化研究会役員
 - ・石器文化研究会企画幹事

自己評価: 4

【有識者意見】

- ・研究や企画等で忙しい中、各団体や多種多様な依頼内容に対してよく対応されていると感心するばかりです。さぞ準備が大変でしょうが、他機関や団体との出会や活動の中から得られるものはきっと多いことでしょう。
- ・学芸員は他機関・団体への講師派遣や会議・委員会出張なども大事な業務と捉え、オーバーワークにならない範囲内で協力に応えていただきたい。

- ・他の機関や団体への講師派遣や交流は、博物館職員の見識を広める上でも重要であり、外部から改めて自身の博物館を見つめる機会になるので、無理のない範囲で積極的に行っていただきたいと思います。
- ・学芸員が、専門家としての役割を十分果たせる体制づくりを引き続き進めてほしい。
- ・職員の負担が大きな事業であるが、市民と博物館をつなぐ大切な事業である。職員の健康を第一に考え努力して欲しい。
- ・他機関・団体への講師派遣・協力についても、主な取組から、積極的に行われていることがうかがえる。
- ・学芸員が、専門家としての役割を十分果たせるように、派遣等に関し、その体制づくりをしっかりと進めてほしい。

有識者評価:4.0

3-1b 他機関での展示や連携事業

【主な取組】

(他機関での展示)

- ・「麻布大学いのちの博物館と相模原市立博物館の連携に係る覚書」に基づき、麻布大学いのちの博物館で下記のミニ展示を開催。
 - ・「市民学芸員かわら版」、来場者 647 人
 - ・「石のステンドグラス ミニ～岩石の顕微鏡写真～」、来場者 3,188 人
 - ・「憲政擁護運動と尾崎行雄(号堂)」、来場者 709 人
 - ・「相模原ふるさといろはかるた」、来場者 621 人(令和 7 年度までの継続事業、来場者数は 3 月 19 日～31 日)
- ・総合学習センターで下記のミニ展示を開催。
 - ・ミニ展示「コクゾウムシが教えてくれた！～縄文土器研究最前線～」、来場者 3,311 人(令和 6 年度からの継続事業、来場者数は 4 月 1 日～17 日)
 - ・「富士のある地球」、来場者 8,713 人
- ・ミニ展示「コクゾウムシが教えてくれた！～縄文土器研究最前線～」を市立図書館で出張展示。来場者数は 20,137 人。

(他機関と連携した事業)

- ・相模原市の他の機関及び市内外の様々な機関等と連携して、ミニ展示、公開講座・講演会等、体験イベント、スタンプラリー等、多岐にわたる内容で活動を展開。その具体的な連携相手と内容は下記のとおり。

【出張展示】

- ・総合学習センター
- ・市立図書館
- ・れんげの里あらいそ
- ・イオン相模原店
- ・麻布大学いのちの博物館

【公開講座・講演会等】

- ・文化財保護課
- ・生涯学習センター
- ・中央区役所
- ・相模原市文化財研究協議会
- ・JAXA 宇宙科学研究所
- ・麻布大学
- ・日野市ふるさと文化財課
- ・町田市生涯学習総務課

【体験イベント・観察会等】

- ・JAXA 宇宙科学研究所
- ・イオン相模原店

- ・アースウォッチジャパン
- ・野生動物との共生の会
- ・相模川自然の村体験教室
- ・NACS-J 自然観察指導員

【スタンプラリー】

- ・文化財保護課
- ・田名財産管理委員会
- ・久保田酒造株式会社

自己評価:4

【有識者意見】

- ・体験イベントやスタンプラリーなど工夫を凝らした展示内容は素晴らしいと思います。出張展示の場所の中には「イオン相模原店」がありますが、ショッピングモールなどの商業施設の展示スペースを活用することは、偶然に博物館のことが目にとまる機会となり、「こんなものを博物館で見られるんだ！」と、博物館に向かうきっかけになるのではないのでしょうか。
- ・他機関でのミニ展示は非常に良い取組であったと思う。今後も継続して実施をお願いしたい。
- ・来場者数だけの記載でなく、一日あたりの来場者数がわかるように展示日数の記載もお願いしたい。
- ・博物館以外の多くの他機関での展示会は、たとえ内容がミニであっても博物学を知るうえで大事な取り組みであると思います。
- ・なかなか博物館に足を運ばない地域の方々にも博物館の魅力を伝える点で重要な活動だと思えます。合わせて他機関へのアピールや来場者の増加につながればと思います。
- ・改正博物館法でも地域の関係機関との連携強化が謳われているが、今後も積極的に推進されることを期待したい。
- ・本当に、全市域が博物館のフィールドだと感じます。決して多くはないと見受けられる職員の方々の専門職としての力があってこそだと思います。
- ・職員の負担が大きな事業であるが、市民と博物館をつなぐ大切な事業でもある。職員の健康を第一に考え努力して欲しい。
- ・他機関での展示や連携事業についても、主な取組から、積極的に行われていることがうかがえる。
- ・改正博物館法で地域の関係機関との連携強化が謳われているところであるが、新規の連携先も散見され、今後も無理のない範囲で、連携が推進されることに期待したい。

有識者評価:4.0

3 - 2 学校等への学習支援

段階評価: 3.4

3 - 2a 講師派遣資料貸出による学習支援

【主な取組】

(講師派遣)

- ・保育園・小中学校・高校・大学等からの講師派遣依頼件数及び聴講者延べ人数は、26 件 1,528 人。主な内容は下記のとおり。
- ・保育園:カイク教室
- ・小学校:カイクのはなし、樹木についての授業、チョウのはなし
- ・中学校:地学フィールドワーク、法務省矯正局タンポポプロジェクト関連出張授業
- ・高校:ホテル観察会、相模原市オリジナルマイアース製作に向けたワークショップ
- ・大学:相模原の歴史と自然・博物館ボランティアの活動について

(資料貸出による学習支援)

- ・博物館資料の貸出しキットの市内小中学校への貸し出しは 8 件。内容は下記のとおり。
- ・糸車(小学 1 年生 国語「たぬきの糸車」)1 件
- ・火のし、炭火アイロン、電気アイロンほか全 12 点(小学 3 年生 社会「昔の暮らし」)1 件
- ・箱膳セットほか全 3 点(小学 3 年生 社会「わたしたちの市のあゆみ」、「かわる道具とくらし」)1 件
- ・下駄ほか全 2 点(小学 3 年生 社会「かわる道具とくらし」)1 件
- ・昭和ってすごい時代体感キット(小学 3 年生 社会「かわる道具とくらし」)2 件
- ・縄文体験キット(小学 6 年生 社会「歴史」)1 件
- ・太陽系モデル、月の満ち欠け模型(中学 3 年生 理科「地球分野」)1 件

自己評価: 3

【有識者意見】

- ・小学校から大学まで、それぞれの依頼者に即したテーマと内容の準備は容易なことではないと思います。しかし、この活動を通じて得られるものは企画や展示にきっと役立つでしょう。
- ・「貸出キット」の活用が中々伸びないようですが、近年学習の中心になっている「探究学習キット」的なものに発想を変えてみてはどうでしょうか。
- ・専門家である学芸員から話を聞くことは、幼児から学生までが地元の歴史・文化や博物学に触れる良いきっかけとなる。各学校だけでなく、他の多くの教育施設をはじめ、地域の様々な施設と連携を強化すべきである。
- ・講師派遣による学習支援があるのを知らなかったのも、小中学校にもっとアピールしても良いのではないかと思います。

- ・保育園から大学まで幅広く実施されており、それぞれの世代がどのようなことに興味を持ち、どのように反応するかを直接把握できることは、博物館での企画内容を検討する上で大いに役に立つものだと考えます。忙しい中の出張でしようが、今後も実施してください。
- ・学芸員の数が限られており、市内小中学校全校に対するサービスは厳しいと思われる。博学連携をさらに推進するためには、学芸員の増員を視野に入れる必要がある。
- ・貸出しキットの存在を知らない教員もいると思うので、貸出可能なキットの一覧表の公開と共に利用を促す広報活動も必要ではないか。
- ・先生方があまり利用されないのにはどんな理由があるのか？HP から貸し出し方法を調べられるのか？
- ・貸出しキットを知らないという学校が多いのではないのでしょうか？実物を見られる貴重な機会だと思います。もっと学校へ周知してもいいのではないのでしょうか。
- ・「貸出キット」は実際に利用すればその良さが分かってもらえるが、実際の貸出が伸びないのは残念です。学校では年間の指導計画があるでしょうから、突発的に学年の一クラスだけが利用するようなことは難しいと思います。現場の教員の皆様に協力（教員研修受入の中だけでも）をお願いし、年間の指導計画とキットの対応表のようなものを作成してはどうでしょうか。
- ・学校現場の事情もあると思うが、学校数のわりに引き続き資料の貸し出し件数が少ない。現場の先生方の理解と周知が一層必要と思われる。
- ・上溝南中学校のホームページに「相模原 70 年と学校給食のあゆみ」のポスターが貼り込まれていました。
- ・各学校に、博物館で貸し出し可能なキット一覧を渡してあるのだと思うが、この評価を見ると、学校側であまり周知されていない印象が残る。学校側からのニーズの把握と、博物館側からの更なる PR の強化をしていく必要があるのではないか。
- ・小中学校と博物館の連携は学びを深めるために有意義であり、今後も活性化していったほしい。例えば、他校での実例が分かるように、過去 3 年分の講師派遣と資料貸出の実績（年報から抜粋）や、授業を受けた児童生徒・教員のアンケート・声を資料として、市内の小中学校に配付してはどうでしょうか。
- ・学校教育との連携は社会教育の使命である。授業への協力も大切であるが夏季休暇や放課後の児童生徒の「知りたい」「好きだ」に応える学習支援が求められる。そして博物館は今、「学校等への学習支援」として、不登校の児童生徒の学習要求に対し、何が出来るかを早急に検討し、困難を抱える市民の公的社会教育機関としての役割を果たすべきだ。
- ・学校等への学習支援についても、主な取組から、積極的に行われていることがうかがえる。
- ・貸出キットの貸出件数が昨年と変わらず、先生方の認知度が低いように感じます。学校以外の施設（幼・保育・こども園、老人ホーム）や団体（子ども会、PTA）への貸し出しの検討をしても良いのではないのでしょうか。
- ・もっと多くの学校利用があっても良いと思われる。学校と博物館距離が課題かと思われるが、さらなる学校の博物館利用に期待したい。

有識者評価: 2.9

3-2b 見学・職業体験・教員研修・博物館実習生の受入

【主な取組】

- ・学校教育支援に対応した学習資料展を毎年開催。令和 6 年度は「相模原 70 年と学校給食のあゆみ」と題し、市制施行70周年を記念した相模原市の 70 年間の歴史と学校給食に関する内容を紹介。
- ・小中学校・幼稚園・保育園等へのプラネタリウム番組の学習投影や展示学習。利用件数 305 件。
- ・中学生の職業体験について、2 校(7 名)を各校 1 日間の受入。団体利用対応、資料整理、標本作成等を体験。
- ・博物館実習生の受入。共通実習 3 日間、専門実習 6 日間。受入大学数 15 大学、受入人数 19 名。

【市民の意見】

(学習資料展見学者アンケートより)

- ・若い頃はあまり関心がなかったことが、今になって知ることができました。もっと相模原について学びたいと思えてよかったです。
- ・相模原市の近代歴史を知ることにより、住んでいる町に関心が深まりました
- ・とても考えたり、初めて知ったりするのが多かったし、説明などが分かりやすかったです。
- ・市についてもっと好きになれました。懐かしき幼少期の記憶がよみがえりました。
- ・親子で一緒に見ました。それぞれの世代の給食について互いに話しながら見ることができ、楽しかったです。
- ・誰もが経験してる給食を見て小学生時代の色々な事が思い出された。
- ・相模原市の給食の始まりの秘話に感動しました。当たり前のようにある給食ですが、改めて給食を含めて、色々な物が当たり前にはないのだと実感しました。
- ・昔のものがまるで本物のように展示されていて、すごかったです。

自己評価:4

【有識者意見】

- ・15 大学 19 名の大学生の博物館実習生受入れはさぞ大変だったでしょうが、学生のみならずにはとても有意義なものになったことでしょう。中学生の職業体験もあり、将来の職業として学芸員を考える子供たちが増えることを期待したいものです。
- ・近年、教員が研修を積むことが要求されています。博物館の利用を促進する上でも、多くの教員の方々に研修先に選んでもらえるような研修内容を用意し PR をしたいですね。
- ・見学では、高齢者の受入れや『触れる展示』といったバリアフリー化やユニバーサルデザイン化などの工夫で見学者の幅を広げていってはどうでしょうか。
- ・幼稚園児から大学生ならびに教員までが見学や研修できる受け皿があるのは、博物館が持つ特色でもある。学芸員は業務内容が増えて負担も多くなるが、今後も受入者に対して

丁寧に対応していただきたい。

- ・相模原 70 年と学校給食のあゆみ」展示は思い出すことが多くとても楽しい時間でした。
- ・小中学校・幼稚園・保育園等へのプラネタリウム番組の学習投影や展示学習は 300 件を超えており、また、中学生の職業体験や、博物館実習生などを積極的に受け入れていることは高く評価できる。
- ・子どもたちの学びの場として、また、未来の学芸員育成の場として、博物館は大きく貢献していると思います。これからも様々な世代に愛される場所でありますよう願っています。
- ・毎年、多人数の博物館実習生の受け入れを行ってもらい、感謝している。

有識者評価: 3.9